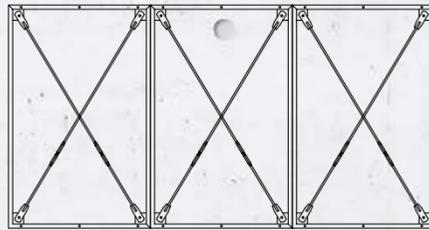


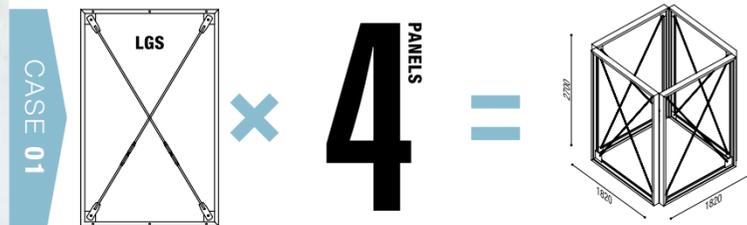


多種多様な建築を作るためには 単一のパーツを連結するだけ!!



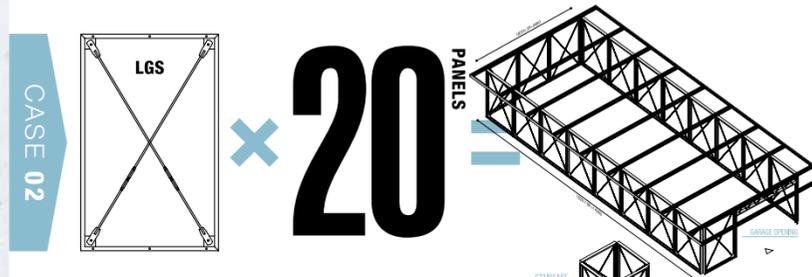
一般の建築は、「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って、軸組を作っていくのですが、LGSシステムでは柱梁は単独では存在しません。隣のパネルと繋ぎ合わされたとき、初めてその一辺が柱になるのです。つまり同じ部材の連結が、多種多様な建築を作り上げていくシステムなのです。部材はすべて同じですから、精度の監理がしやすく、ローコスト、スピーディに生産することが可能で、下記のようにパネル枚数で建物のカタチや値段、ライフスタイルも連想しやすいのもメリットと言えます。

つまり



畳二枚分の最小単位建築

茶道の世界でも畳二枚の大きさを最小単位としています。この最小単位を意識しているのは日本人だけではありません。極端な話、LGSパネル4枚あれば、人間は雨風を凌いで生きていけるという哲学的なカタチが構成できます。この最小単位を少し意識することで、必要にして十分な自分の空間をイメージすることができます。



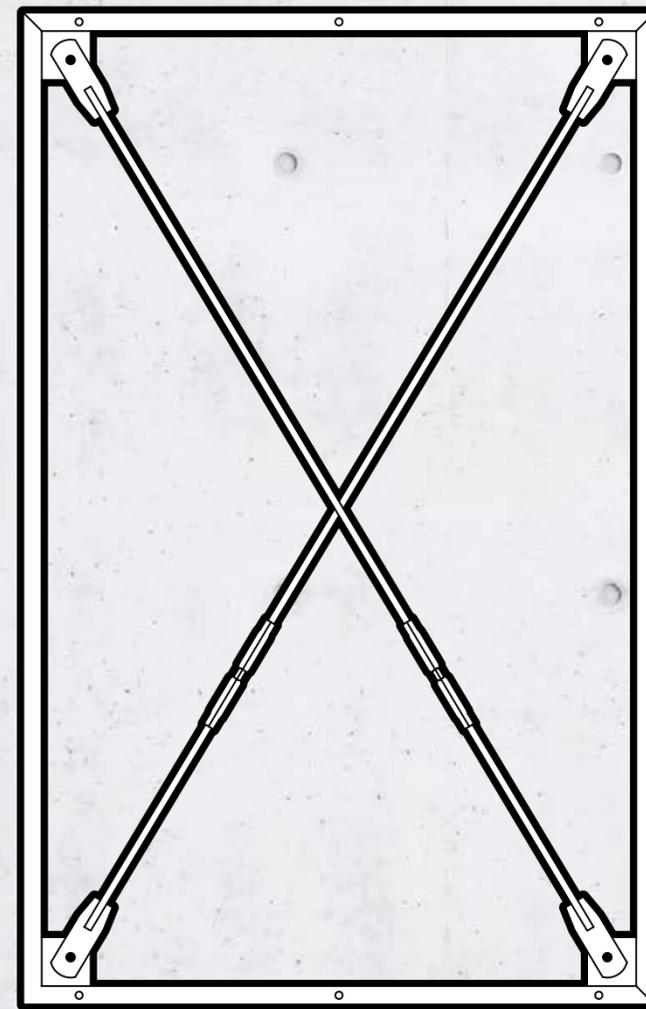
アメリカな郊外型平屋

平屋においてもシャープでソリッドな建築フォームを実現可能です。これはもともと50年代のアメリカ西海岸の実験住宅群「ケーススタディーハウス」に発端されて、建築構造の規制が厳しい日本で同じテイストを実現するために開発されたからです。郊外型住宅やウィークエンドハウスなど、外部の自然と一体になった美しいラインの骨組み原型です。



3階建てガレージ住宅

LGSシステムは、軽量鉄骨造に分類されるので、建築基準法では3F建てまでが可能範囲です。いわゆるうなぎの寝床状態の都市型敷地で、インナーガレージ付きの住宅を形成するカタチ。建物の一番奥にらせん階段を設置して、屋上まで続くコアを作る。ちなみに最上部に設けられた方丈（パネル4枚の箱）は、階段室となっています。



DAYTONA HOUSEを構成するLGSパネルとは？

LGSパネルとは、デイトナハウスの建築システムの基本の単位になる軽量鉄骨のパネルです。厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して作ります。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な部分です。デイトナハウスは、この基本の形を連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を作っていく全く新しい建築のカタチなのです。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かりやすさと、パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストが持ち味なのです。

デイトナが提案する新しい建築のカタチ

DAYTONA HOUSE × LDK

これまで、様々な住宅やガレージの魅力を集めてきたデイトナが、設計&建築を手掛ける「LDK」とタッグを組み、ついに本物の建物をプロデュース。単一部分を連結させるだけで、個人住宅はもちろんのこと、ガレージハウス、賃貸住宅、店舗などなど、どんな建築にも対応する、遊びの天才デイトナらしい創意工夫溢れる住宅システムとなっています。

Text/Atsushi TAMADA

NEXT PAGE
DAYTONA HOUSE
サンプル例

りあげるシステムです。パーツはあくまでも単一。それでいてガレージや住宅はもちろん、別荘や店舗さらにマンションまで作れてしまうのです。このパネル状のパーツが価格の基本単位なので、分かりやすく言えば、パネル枚数の掛け算で価格が想像できることになりました。

これは、「ニッポンに昔からある「坪いくら？」という計算法と同じです。「坪」というのは畳2枚分ということですから、畳というパーツが家全体の寸法や価格の基準になっているということなんです。その意味では、昔のニッポンの木造住宅は素晴らしいシステムだったと言ったことができます。生活実感に則した基本的な寸法（モジュール）を中心にするようなことを実感できるようなことになっていったのです。

でも今では畳も姿を消しつつあり、真っ白なビニールクロスの家ばかりになりました。そのような変化の中で、私たちは生活の基本単位（モジュール）を失ってしまったのかも知れません。デイトナハウスのLGSパネルの幅は180センチです。それは畳一枚と同じ長さ。必然的に私たちに「ものさし」になっていく空間認識の定規（ものさし）になっているのです。

今販売されている住宅商品は、大量生産で規格化されているにも関わらず、あなたも個性的であるのかのように売り文句を謳いあげます。

「家づくり」というものは、私たちにとって近くて遠い存在。身近でありながら、案外分らないことも多いものです。立地や作り方、性能、メンテナンス、そして何よりその価格。自分の趣向を取り入れると突然値段が跳ね上がる気がするし、「家なんて単なる寝る場所。だから何でもよいよ。」そう思っている方も多いかもしれません。でも、家やガレージは毎日使うもの。もし自分の趣味性を反映できるのならば、生活はもっと豊かです。

そこで求められるのは、価格や性能が分かりやすく、リーズナブルであること。しかもそれでいてカッコいい家。自分の趣向がフルに反映できて、永い間愛着が持続する家です。そんな都合のいい家がホントにあるのか？ あるのですよ。それこそデイトナがこの連載を通じて提案する全く新しい家のカタチ、デイトナハウス×LDKなのです。

このデイトナハウスとは、3・2ミリの「LGSパネル」と呼ばれる軽量鉄骨をつなぎ合わせていくことで、様々なカタチや用途の建築を作

TYPE 03 店舗&事務所

SHOP & OFFICE

デイトナハウスはLGSのフレームを利用したガラス外壁のメリットを發揮して、店舗建築にも最適な建築工法です。ローコスト、短工期、シャープな外観、内部の程よいスケルトン感など、店舗建築に必要な要素がバランスよく実現できるからです。大きなガラスをファサード（建物の正面）に配置することで、外部から見る天井の鉄骨骨組みが印象的なのも大きな特徴。デイトナハウスの店舗パージョンは、いろんな可能性を秘めています。



多くの店舗実例をご紹介します。左上は「山中湖フォレストヴィレッジ」、左下は伝説のカフェ「WIREDINER」、上はキャットストリートにある「X-Girl」。



モダンなデザインのカラージュ付き賃貸マンションだっって建築可能。適度に鉄骨のシャープなラインを露出させつつ、「GRCコンクリート」の断熱外壁やウッドナーな手すりなどを加味して、軽快感と高級感を両立させることができます。

TYPE 04 集合住宅

HOUSING COMPLEX

デイトナハウスは、もちろんマンションやアパートも得意分野。軽量鉄骨の法的な制約は3階建てまで延べ床面積、500㎡までというもの。したがって、その範囲内であれば、十分な規模の賃貸住宅が可能です。艶消し黒の鉄骨フレームを露出させた、新しいタイプのカラージュ付き賃貸住宅や趣味の道具をストックするトランクルームなど、可能性は無限に広がっていきます。基礎の軽量化や骨組みの規格化など、ローコスト化の要素も満載です。

TYPE 01 ミニハンガーハウス

MINI HANGAR HOUSE

パウダーコーティングされた骨組みをむき出しにしたのが、以前本誌でもご紹介した、最小限インナーガレージ住宅「MINI HANGER」です。ハンガーという名の通り、ライフスタイルの格納庫をテーマに設計。従来の商品住宅のように、壁掛けテレビの前にソファがあるような、ステレオタイプのリビングルームを敢えて設定することをせず、1階のガレージに近接してソファスペースを設けています。また、モノコックの屋根「R-SPAN」も特徴の一つで、これは支える骨を必要としないため、美しい吹き抜け空間を2階に実現することができます。鉄の素材感が味わえて、更にコンパクトな土地でも住まい手のニーズに応じて自由自在にスペースを調節できるという、デイトナハウス by LDKの代表的なモデルです。



1階のガレージ内部。艶消しブラックの鉄骨フレームが、なぜか男らしく心落ち着かせる雰囲気を演出。専用アタッチメントを駆使して、ディスプレイスペースを実現すれば、人生これに勝る快楽なし。まさに自分だけの秘密基地が作れてしまいます。



外壁には、亜鉛とアルミニウムの合金「ガルバリウム鋼板」という耐久性のある素材を使用。断熱材と一体になった外断熱方式で、鉄骨の柱の外側に設置します。建物の印象をシャープにするデザイン上のメリットに加えて、長い間メンテナンスフリーの高耐久素材。

TYPE 05 別荘

RESORT VILLA

1950年代アメリカ西海岸のミッドセンチュリーデザインを踏襲して開発されたLGSシステムは、本来平屋の別荘にぴったりの建築工法なのです。細い庇（ひさし）の一直線のラインやスチールサッシのシャープな印象は、木造ではまず実現できない別の世界観を表現できます。それは、分かる人にはすぐわかる世界なのです。大きな木製デッキの設定も自由自在。



庇と内部の天井床のフローリングとウッドデッキその二つの要素がガラス一枚隔てて共存します。そのことで自然と一体感を満喫できる別荘の内部空間が出来上がるのです。実はこれが、ミッドセンチュリーの肝とも言えます。

TYPE 02 個人住宅

DETACHED HOUSE

LGSシステムは、敷地形状に合わせて様々なタイプのパネル組み合わせをした住宅を作ることができます。大きなガラス開口をLGSパネルを利用しながら作ることで、アルミサッシなどの不当に高いコストから解放され、印象的な外観をリーズナブルに形成できるのです。骨組みのパウダーコーティングを白にすると、やさしい印象の鉄骨住宅が出来上がります。このようにパウダーコーティングの色を自由に選べるのもデイトナハウスの特徴です。



ハードボイルドな印象の家や、やさしい印象の外壁意匠など、デイトナハウスは住まい手の好みに合わせてデザインを変えられるのもうれしいポイント。専用ホームページでその豊富なバリエーションを覗いてみてください。

鉄だから寒いんじゃないの？と心配されている方に声を大に言いたいことそれは、むしろデイトナハウスは高性能断熱住宅だということです。外壁の外側には、板状の断熱材を施し、その上に各種外壁材が施工されます。カラージュ空間が涼しく、暖かい。それが長い時間ガレージに滞在する必須条件なのです。

つまり、デイトナハウスのコンセプトを分かりやすく要約すると、次のようになります。

- ① 鉄骨モジュールを使った価格の分かりやすい。
- ② 低価格なのにオーナーの趣向にあったカッコイイ建築が可能。
- ③ 単一パーツ生産によるローコストの実現。
- ④ 素材感を露出させることで他には実現のない清潔な空間性と拡張性。

これら4つの要素を両立させた全く新しい建築のカタチがデイトナハウス×LDKという訳です。今まで縁遠かった建築の楽しさを一気に身近に引き寄せてくれることでしょう。

今後、いろいろなケーススタディをこの連載で展開し、デイトナハウスの魅力をご紹介していこうと思っております。乞うご期待！

いっぽうデイトナハウスは基本単位のパーツを可能な限りシンプルにすることで、むしろ自由な建築を可能にしようという試みです。

更に、余分な装飾を加えず、鉄が持つその洗練された引き立てられているのもデイトナハウスの特徴です。一般的な住宅商品の多くは、骨組みの骨格をビニールクロスで覆い隠してしまっています。それはある種のラッピングみたいなもの。住む人の好き嫌いの判断は、そのラッピングの表面上でしかできません。そのビニールクロスが、脳細胞に刺激を与えてくれることも無く、必然的にすぐに飽きてしまうような空間になってしまいがちです。

しかし、デイトナハウスは余分なラッピングを前提にはしていません。ガレージや趣味の部屋では、鉄骨フレームをむき出しにします。そう言えは、昔の民家や寺社仏閣も、木造の骨をむき出しにした空間。柱を半分出している和室（真壁）もそう。生活の基本単位であるモジュールと、その素材感を露出させることで、潔く分かりやすい空間を構築するので、もちろん余分なクロスが無い分、コストも低減できます。

デイトナハウスの骨格となる鉄骨フレームは、ただのペンキ塗りの鉄ではありません。艶消しのパウダーコーティングを施しています。その深みのある素材感「鉄感」は、毎日見ても飽きることがありません。その置かれるクルマやバイク、様々な趣味アイテムに呼応して、生き生きとした趣味の空間を演出します。

INFORMATION
LDKinc.

デイトナを始めに、カーマガジンやオートカーの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行うユニークな集団。デイトナハウスのLGSパネルの開発は、15年越しのプロジェクト。

代表: 玉田 敏士
WEB: www.ldk.co.jp
TEL: 03-6228-4953

www.daytona-house.com